

第2章 地域の現状

第1節 地勢と交通

1 北海道の地域的状況や特殊性

- 北海道は、北緯41度21分から45度33分に位置し、総面積は8万3,457km²で、日本の総面積の約22%を占めており、東北6県と新潟県を合わせた面積と同等の面積を有しています。
- 地形は、中央部に石狩山地や日高山脈など1,500mから2,000m級の山々が連なっていますが、全体的に平地や湿原など、なだらかな地形となっています。
- 気候は地形や周辺を流れる海流により、日本海側・太平洋西部・太平洋東部・オホーツク海側のおおむね4つに分類されますが、全体として、年平均気温が6℃から10℃程度、年平均降水量は700mmから1,700mmであり、他都府県と比べて冷涼・少雨となっています。冬期には最寒月の月平均気温は0℃以上になることはなく、多雪地域では年間最大積雪深が3mを超え、内陸部では気温がマイナス30℃以下になるなど、積雪寒冷が北海道の気候の大きな特徴です。

2 交通機関の状況

(空路)

道内には、現在13か所の空港があり、道内線として、札幌と各地域を結ぶ路線を中心に9路線、一日56便が就航しています。(平成29年4月現在)

(航路)

道内の5つの離島への交通手段として、最寄りの港から旅客船が就航しており、島民の交通手段として、医療機関への受診、生活物資の供給など本土とのアクセスにおいて重要な役割を担っています。

(鉄路)

道内には、2,589.8kmの鉄路が整備されており、バスと合わせて、自動車を保有していない高齢者などの重要な交通手段となっています。(平成29年4月1日現在)

(道路)

道内には、8万4,725kmの道路が整備されており、うち高規格幹線道路は1,058km、一般国道は6,335kmが整備されています。(平成27年4月1日現在)

3 生活圏

- 北海道は札幌などの大都市に人口が集中し、道内各地での少子高齢化の進行、地域産業や生活関連サービスの減退などにより、地域経済の格差は顕著なものになっています。
- 医療においても、医師を始めとする保健医療従事者の地域偏在などにより、地域間の格差が顕著になっており、医療提供体制に支障が生じています。

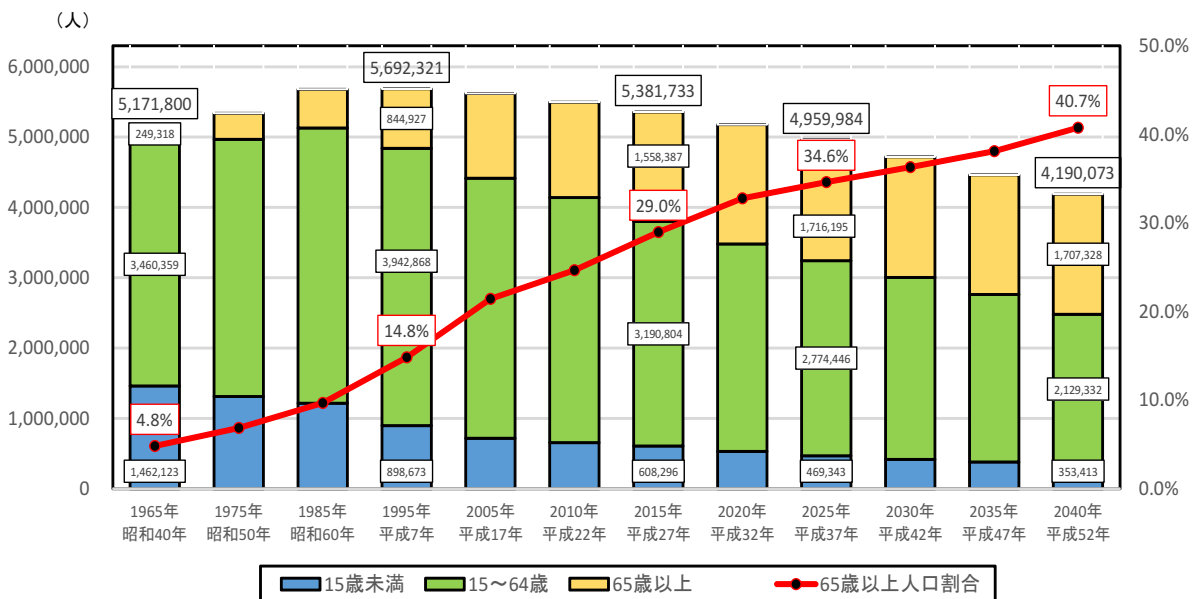
第2節 人口の推移

1 人口構造

(人口)

- 平成27年国勢調査では、北海道の総人口は538万1,733人で日本の総人口の4.2%を占め、47都道府県中8番目に多い人口となっていますが、国勢調査による人口の推移では、出生数の低下による自然減と人口の流出による社会減により、平成7年をピークに減少しています。
- 国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口（平成25年3月推計）では、今後も出生数の低下などの要因で減少傾向にあり、平成37年（2025年）には約42万人、平成52年（2040年）には約119万人の減少が見込まれています。

【人口の推移及び将来人口推計】

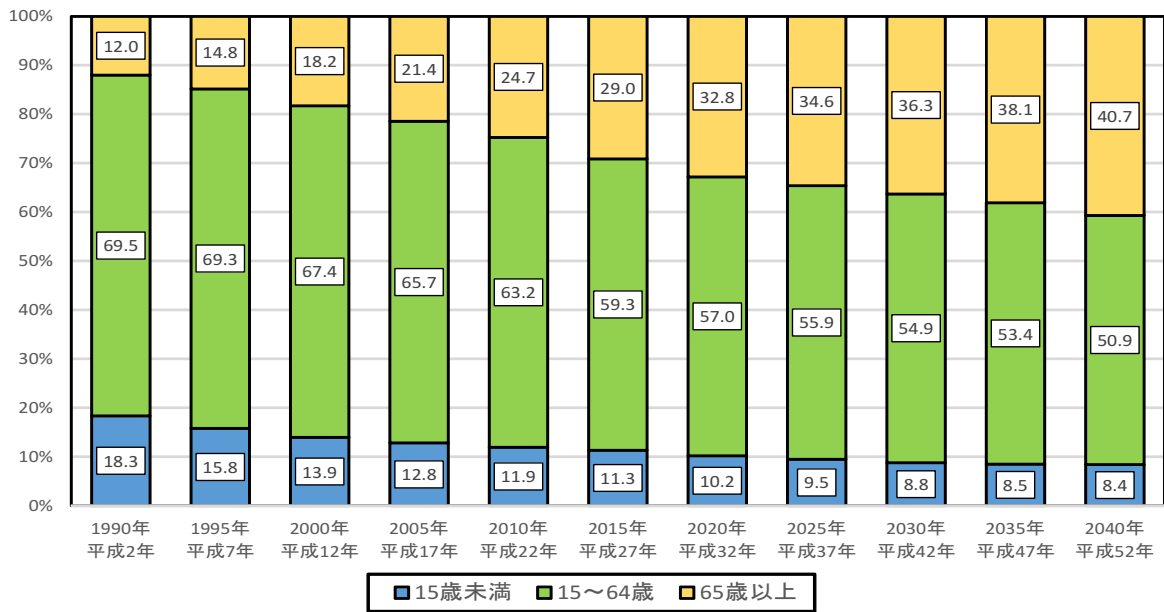


* 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所による推計（平成25年3月推計）

(年齢三区分別構成割合)

- 年齢三区分別構成割合では、年少人口割合（15歳未満）、生産年齢人口割合（15歳から64歳）が減少しており、平成12年国勢調査で、初めて65歳以上人口割合が年少人口割合を上回りました。65歳以上人口割合は全国的にも年々増加しています。
- 将来推計人口において、年少人口割合及び生産年齢人口割合は減少傾向にある一方で、65歳以上人口割合は増加する傾向にあり、平成37年（2025年）には34.6%、平成52年（2040年）には40.7%になると推計されています。

【年齢三区分構成割合】

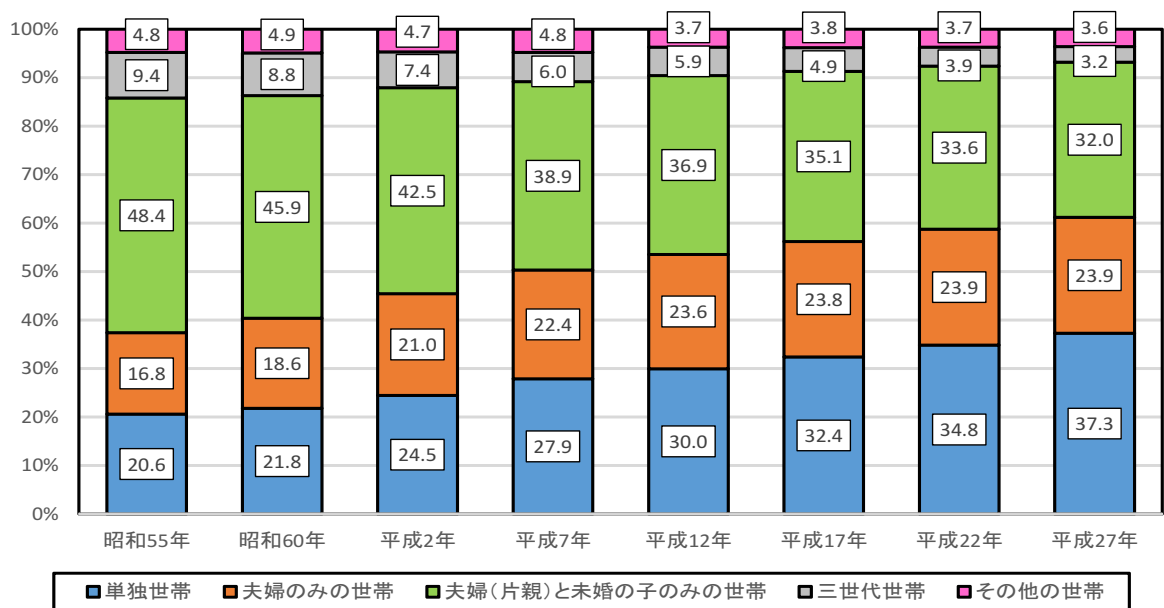


* 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所による推計（平成25年3月推計）

（世帯数）

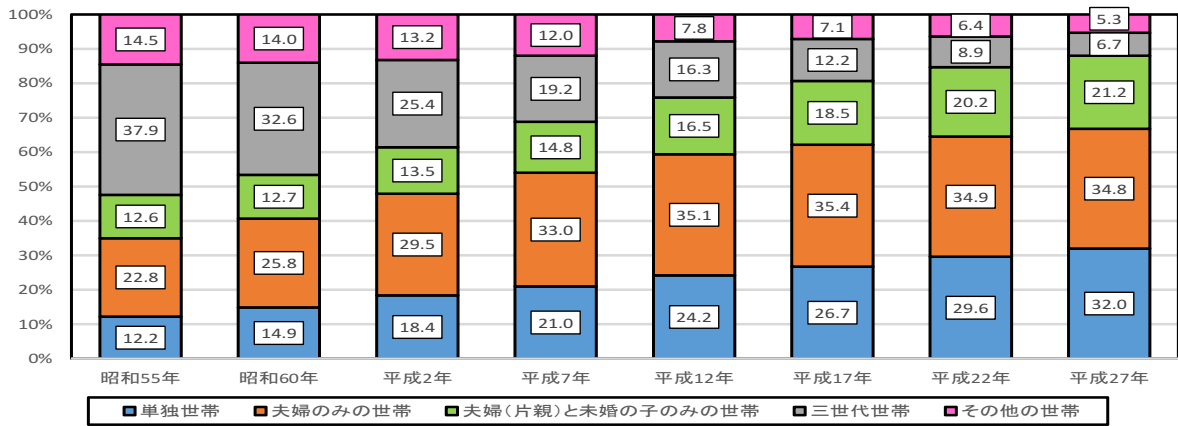
- 平成27年国勢調査では、北海道の一般世帯数は243万8,206世帯となっており、構成割合では、単独世帯が37.3%（90万9,106世帯）、夫婦のみの世帯が23.9%（58万3,361世帯）などとなっており、単独世帯及び夫婦のみ世帯ともに増加しています。
- 一世帯当たりの人員は平均2.21人となっており、47都道府県中2番目に少ない世帯人員数となっています。
- なお、高齢者（65歳以上）のいる世帯については、年々増加しており、その一方、三世帯世帯は減少しています。

【世帯構造別構成割合】



* 国勢調査

【高齢者のいる世帯構造別構成割合】



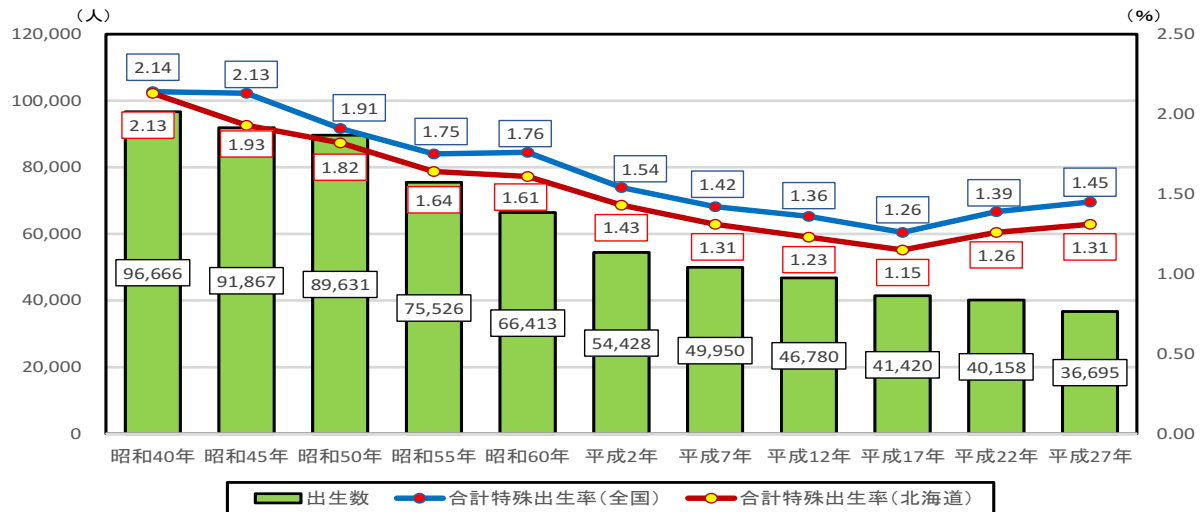
* 国勢調査

2 人口動態

(出生数)

- 平成27年における北海道の出生数は3万6,695人で、50年前から減少が続いており、出生数の減少は大変顕著なものになっています。
- 合計特殊出生率*1で見ると、北海道は全国よりも低く、平成27年人口動態統計では、47都道府県で2番目に低い数値となっています。

【出生数及び合計特殊出生率（全国・北海道）の推移】



* 人口動態統計

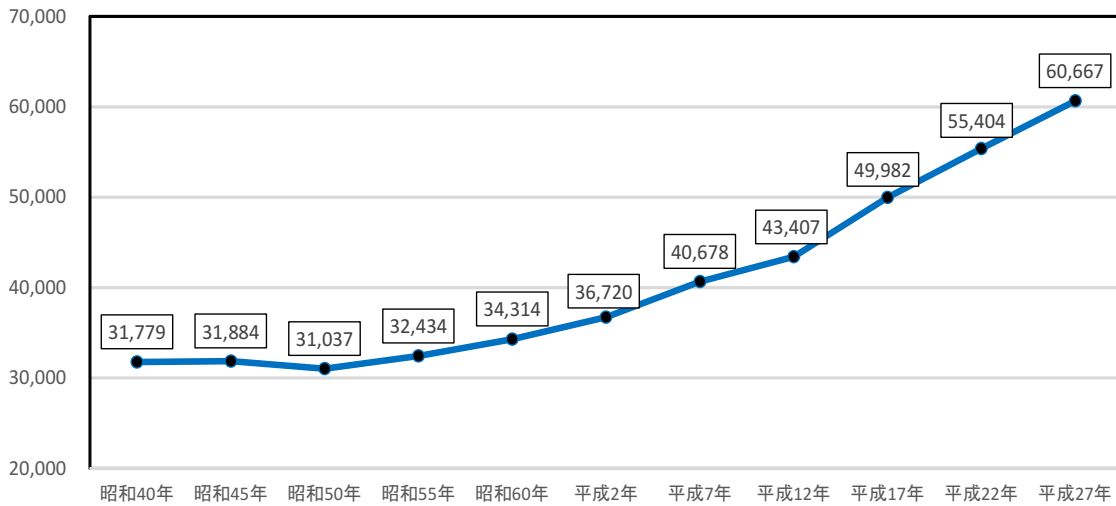
(死亡数)

- 死亡数は年々増加傾向にあり、平成27年では6万667人となっています。北海道の死因順位は、第1位が「がん」31.5%（男性35.3%、女性27.4%）、第2位が「心疾患」15.1%（男性13.4%、女性16.9%）、第3位が「肺炎」9.3%（男性10.1%、女性8.5%）となっています。
- なお、周産期死亡数、乳児死亡数は減少傾向にあり、平成27年では周産期死亡数152人、乳児死亡数73人となっています。

* 1 合計特殊出生率：一人の女性が生涯に産む子どもの数に近似する指標

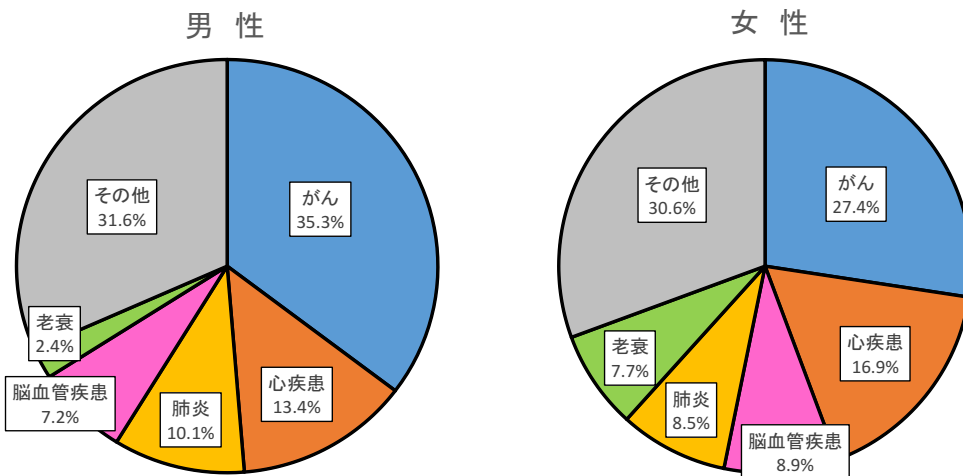
【死亡数の推移】

(単位：人)



* 人口動態統計

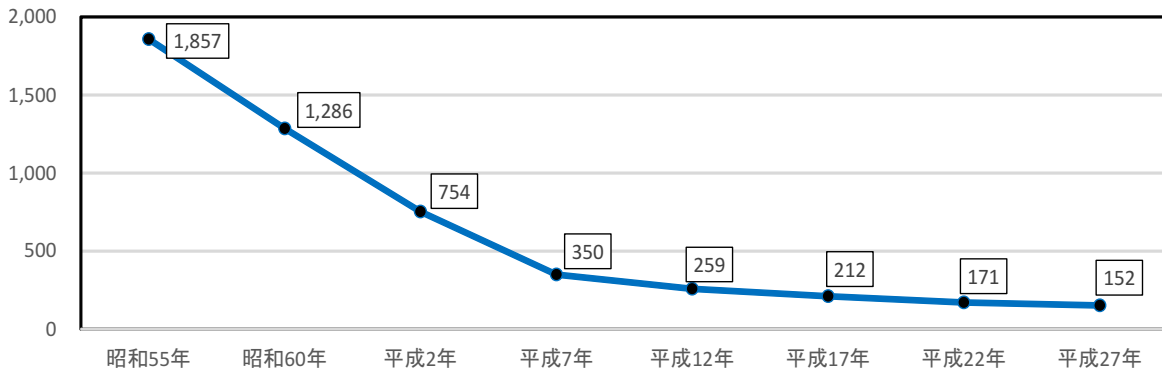
【平成27年主な死因の割合（男女別）】



* 人口動態統計

【周産期死亡数】

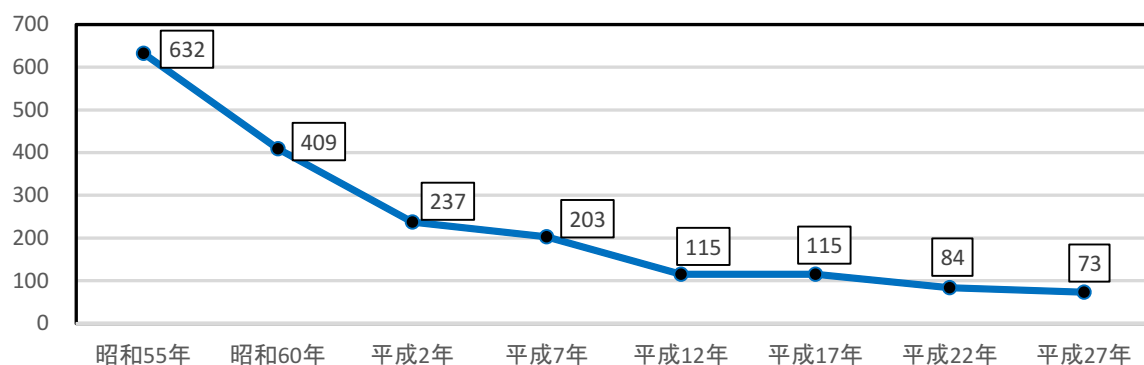
(単位：人)



* 人口動態統計

【乳児死亡数】

(単位：人)

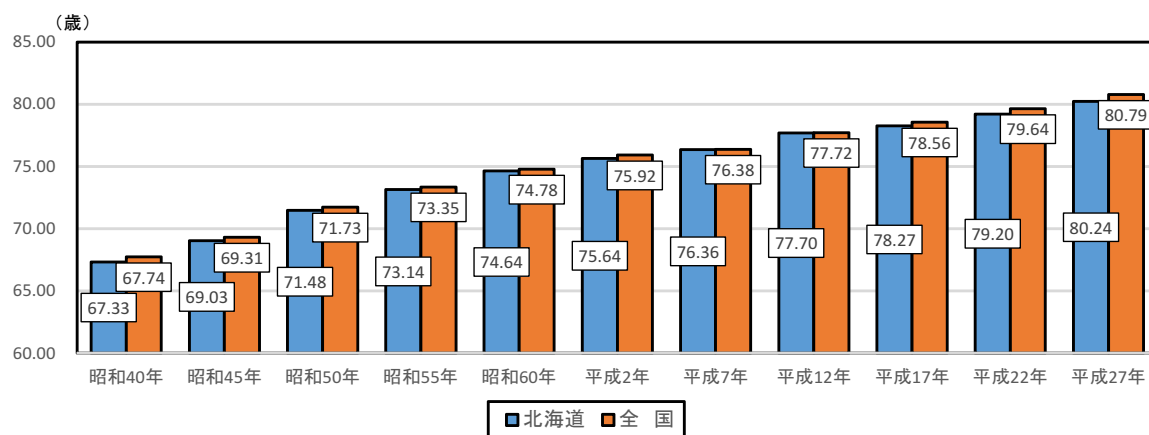


* 人口動態統計

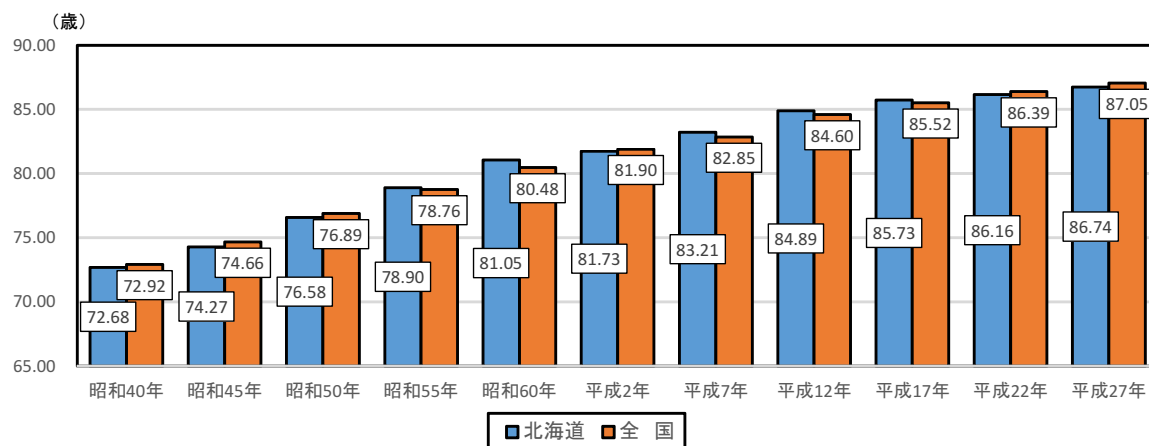
(平均寿命)

平均寿命は、全国と同様に伸びてきており、平成27年では男性が80.24歳、女性は86.74歳となっています。

【平均寿命の推移（男性）】



【平均寿命の推移（女性）】



* 全国値：厚生労働省生命表による

* 北海道値：北海道保健福祉部簡易生命表による

第3節 住民の健康状況

1 生活習慣の状況

(運動習慣の状況) *1

運動習慣があると回答した者の割合は、成人男性では36.4%、成人女性では30.6%となっています。

(食生活の状況) *1

○ 食生活に気をつけていると回答した者の割合は、成人男性では56.2%、成人女性では68.4%となっています。

○ 食塩摂取量については、成人男性では平均11.0g、成人女性では平均9.2gとなっています。

(休 養) *1

睡眠による休養が「あまりとれていない」「まったくとれていない」と回答した者の割合は、成人男性では17.5%、成人女性では22.2%となっています。

(飲酒の状況) *1

生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている者（1日当たりの純アルコール摂取量が男性で約40g以上、女性20g以上）の割合は、男性では18.2%、女性では12.0%となっています。

(喫煙の状況) *2

「毎日吸っている」又は「時々吸う日がある」者の割合は、成人男性では34.6%（全国31.1%）、成人女性では16.1%（全国9.5%）と、男女とも全国平均と比較し高い状況です。なお、成人男性・成人女性とも減少傾向にあります。

*1 健康づくり道民調査（平成28年）

*2 国民生活基礎調査（平成28年）

2 生活習慣病の有病者・予備群の数等

(高血圧の状況) *1

高血圧症有病者*2の割合は、成人男性57.1%、成人女性43.5%であり、男性では50歳代以降、女性では60歳以降の各年代で50%を超えています。

正常高値血圧者*3の割合は、成人男性24.2%、成人女性17.9%となっています。

(脂質異常症の状況) *1

脂質異常症について、総コレステロール240mg/dl以上*4の者の割合は、成人男性では9.5%、成人女性では18.0%であり、LDLコレステロール160mg/dl以上*4の者の割合は、成人男性5.8%、成人女性8.3%となっています。

(糖尿病の状況)

○ 平成26年度特定健診のHbA1c値*5「6.5%以上（受診勧奨判定値）」該当者は、男性は2万9,150人（8.5%）、女性は1万2,181人（3.8%）であり、「5.6%以上6.5%未満（保健指導判定値）」該当者は、男性は12万3,353人（36.0%）、女性は11万5,824人（36.6%）となっています。*6

○ 医療機関や健診で糖尿病と言われたことがある者（20歳以上）のうち、糖尿病治療継続者の割合は、59.8%となっています。*1

(肥満の状況) *1、*7

○ 男性の肥満者（BMI25.0以上）の割合は、20～60歳代の区分では40.9%であり、全国31.6%と比較して高い状況です。

○ 女性の肥満者（BMI25.0以上）の割合は、40～60歳代の区分では25.3%であり、全国20.5%と比較してやや高い状況です。

*1 健康づくり道民調査（平成28年）

*2 収縮期140mmHg以上、または拡張期90mmHg以上、降圧剤服薬者。

*3 収縮期130mmHg以上140mmHg未満、または拡張期85mmHg以上90mmHg未満の者で、降圧剤服薬者を除く。

*4 薬を服用している者を含む

*5 HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）：過去1～3か月の血糖値を反映した血糖値のコントロール指標。

*6 厚生労働省「第2回NDBオープンデータ」（平成29年）

*7 国民健康・栄養調査（平成27年）

第4節 患者の受療動向等

1 患者の受療動向

- 入院医療に係る受療動向について、第二次医療圏ごとのデータを見ると、札幌市、旭川市、函館市など医療施設が整備された都市部に全道から患者が集まることが分かりますが、地域医療構想の推進に当たっては、市町村単位での受療動向も踏まえた対応が必要になります。
- また、通院においては、一部の圏域を除き、高い自給率となっていますが、全国を上回る少子高齢化などを踏まえると、移動の手段が限られる高齢者への対応が重要になります。

【入院患者の受療動向】*1

患者居住圏域	圏域内自給率	流出先圏域の構成比			
		札幌	札幌	札幌	その他
南渡島	97.6%	札幌 1.64%	北渡島檜山 0.46%	西胆振 0.18%	その他 0.15%
南檜山	50.4%	南渡島 45.21%	札幌 2.46%	北渡島檜山 1.38%	その他 0.60%
北渡島檜山	60.6%	南渡島 26.31%	札幌 8.03%	西胆振 3.89%	その他 1.16%
札幌	98.9%	後志 0.28%	南空知 0.25%	東胆振 0.15%	その他 0.39%
後志	70.7%	札幌 27.22%	西胆振 1.56%	北渡島檜山 0.31%	その他 0.22%
南空知	65.7%	札幌 30.76%	西空知 2.76%	東胆振 0.25%	その他 0.52%
中空知	83.8%	札幌 9.97%	上川中部 2.38%	北空知 1.56%	その他 2.28%
北空知	68.3%	上川中部 18.39%	中空知 8.44%	札幌 3.62%	その他 1.25%
西胆振	94.4%	札幌 4.64%	東胆振 0.55%	後志 0.15%	その他 0.25%
東胆振	82.0%	札幌 12.49%	西胆振 4.88%	南空知 0.26%	その他 0.38%
日高	52.4%	札幌 24.35%	東胆振 19.39%	十勝 2.60%	その他 1.30%
上川中部	97.7%	札幌 1.33%	北空知 0.33%	中空知 0.30%	その他 0.31%
上川北部	74.5%	上川中部 20.64%	札幌 3.56%	北空知 0.55%	その他 0.74%
富良野	69.5%	上川中部 25.32%	札幌 3.61%	中空知 1.21%	その他 0.34%
留萌	63.3%	札幌 14.47%	上川中部 13.45%	北空知 5.37%	その他 3.45%
宗谷	59.0%	札幌 20.28%	上川中部 10.03%	上川北部 9.72%	その他 0.94%
北網	93.3%	札幌 4.36%	上川中部 1.06%	釧路 0.91%	その他 0.41%
遠紋	68.8%	北網 13.54%	上川中部 8.61%	札幌 6.88%	その他 2.19%
十勝	96.5%	札幌 2.47%	北網 0.53%	上川中部 0.13%	その他 0.33%
釧路	96.5%	札幌 2.35%	十勝 0.53%	北網 0.23%	その他 0.41%
根室	53.4%	釧路 40.03%	札幌 5.20%	北網 0.60%	その他 0.81%
合計	90.0%				

【外来患者の受療動向】*1

患者居住圏域	圏域内自給率	流出先圏域の構成比			
		札幌	札幌	札幌	その他
南渡島	99.5%	札幌 0.35%	南檜山 0.05%	北渡島檜山 0.04%	その他 0.07%
南檜山	75.9%	南渡島 22.78%	札幌 0.95%	北渡島檜山 0.20%	その他 0.14%
北渡島檜山	77.0%	南渡島 15.57%	札幌 2.79%	西胆振 2.66%	その他 1.99%
札幌	99.4%	南空知 0.23%	後志 0.13%	東胆振 0.07%	その他 0.20%
後志	90.4%	札幌 8.96%	西胆振 0.48%	北渡島檜山 0.09%	その他 0.12%
南空知	86.2%	札幌 12.40%	中空知 0.97%	東胆振 0.24%	その他 0.19%
中空知	92.9%	札幌 3.33%	上川中部 1.39%	南空知 1.12%	その他 1.29%
北空知	82.8%	上川中部 11.10%	中空知 4.06%	札幌 1.39%	その他 0.64%
西胆振	97.6%	札幌 1.71%	東胆振 0.50%	後志 0.05%	その他 0.11%
東胆振	93.8%	札幌 4.20%	西胆振 1.61%	日高 0.18%	その他 0.19%
日高	83.1%	東胆振 8.41%	札幌 6.44%	十勝 1.56%	その他 0.54%
上川中部	99.2%	札幌 0.41%	北空知 0.10%	富良野 0.08%	その他 0.19%
上川北部	87.9%	上川中部 10.65%	札幌 1.12%	宗谷 0.07%	その他 0.25%
富良野	86.5%	上川中部 11.73%	札幌 1.15%	十勝 0.29%	その他 0.33%
留萌	87.8%	上川中部 4.88%	札幌 4.58%	宗谷 1.19%	その他 1.60%
宗谷	86.9%	札幌 5.13%	上川北部 3.86%	上川中部 3.11%	その他 1.01%
北網	98.5%	札幌 0.90%	上川中部 0.22%	釧路 0.15%	その他 0.23%
遠紋	85.9%	北網 7.97%	上川中部 2.43%	札幌 2.02%	その他 1.72%
十勝	98.8%	札幌 0.60%	北網 0.27%	富良野 0.14%	その他 0.19%
釧路	98.8%	札幌 0.50%	根室 0.27%	十勝 0.16%	その他 0.23%
根室	85.0%	釧路 13.14%	札幌 1.40%	北網 0.20%	その他 0.29%
合計	96.1%				

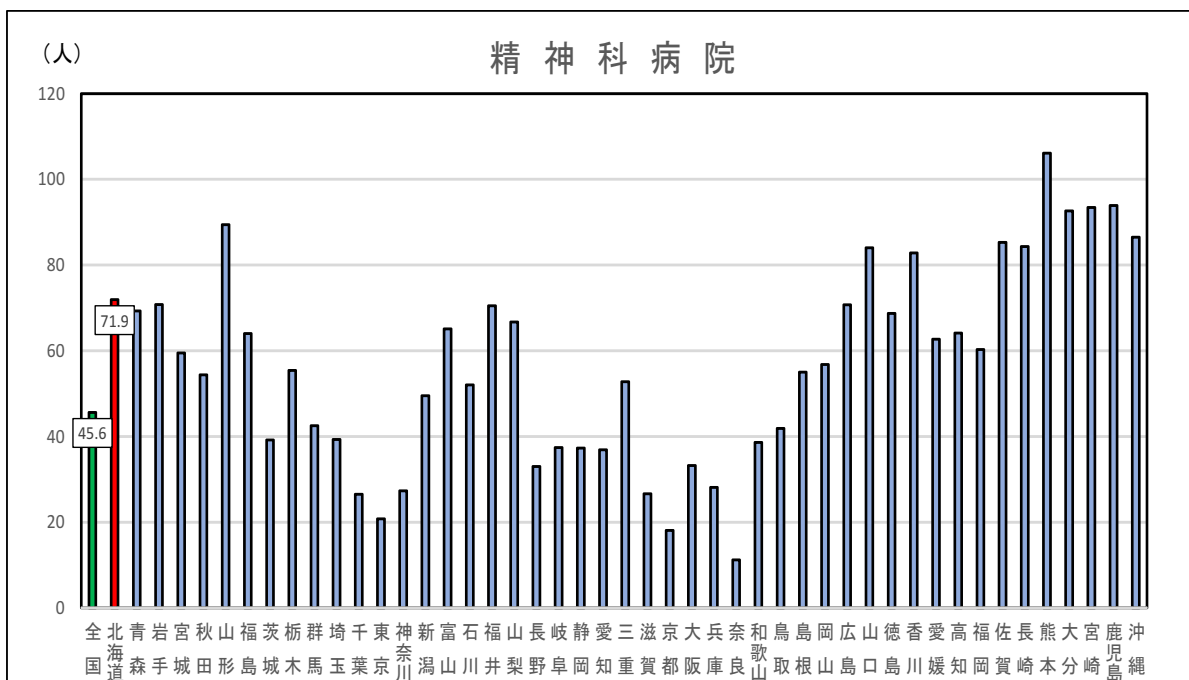
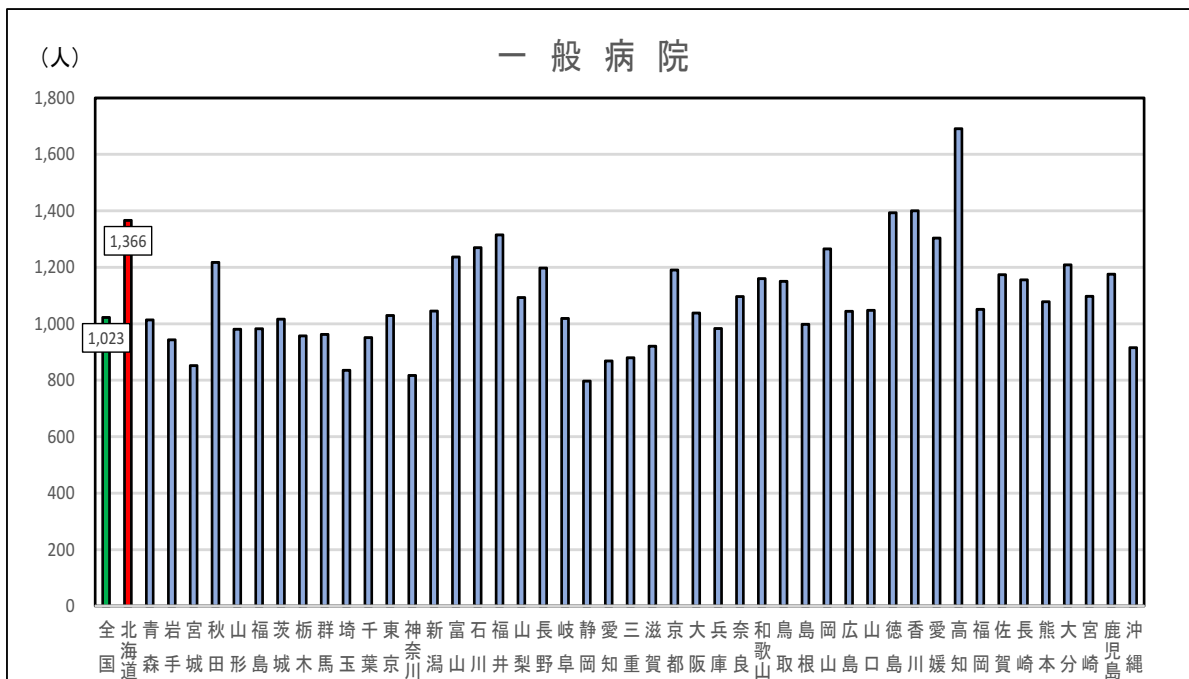
*1 入院患者、外来患者の受療動向：厚生労働省「医療計画作成支援データブック」（平成26年度受療動向）

2 患者数

(1) 1日平均外来患者数

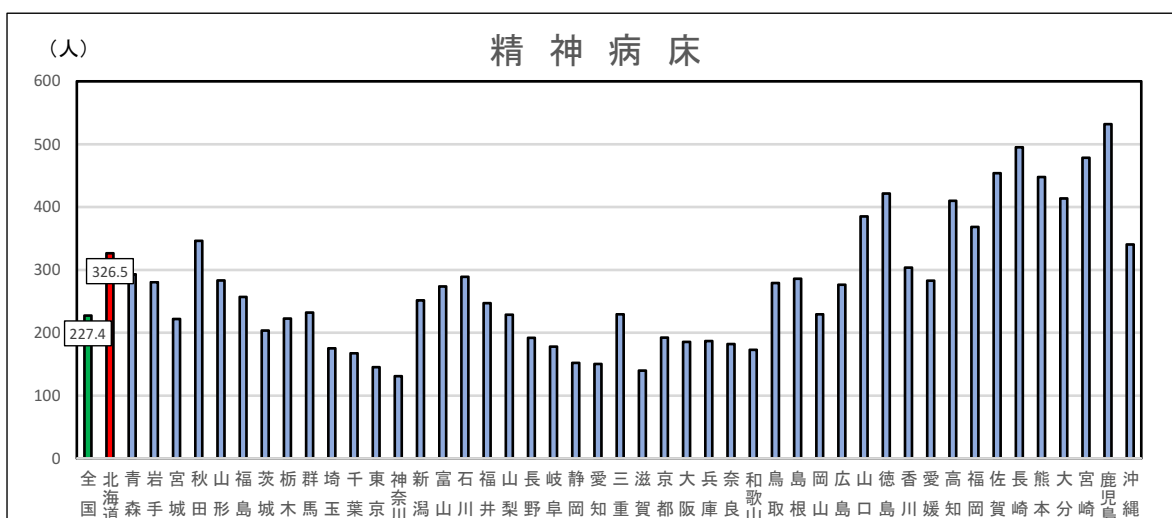
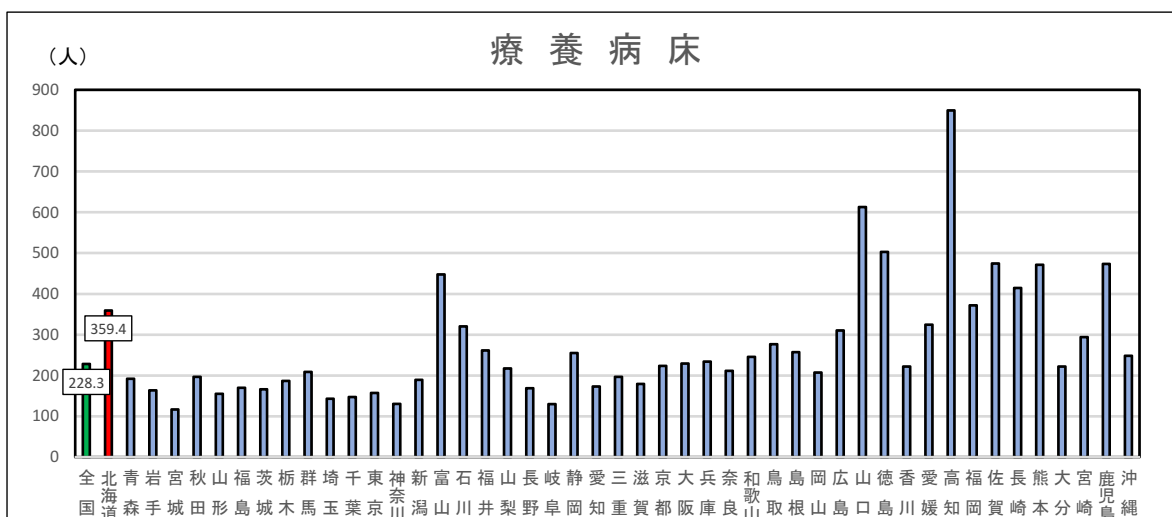
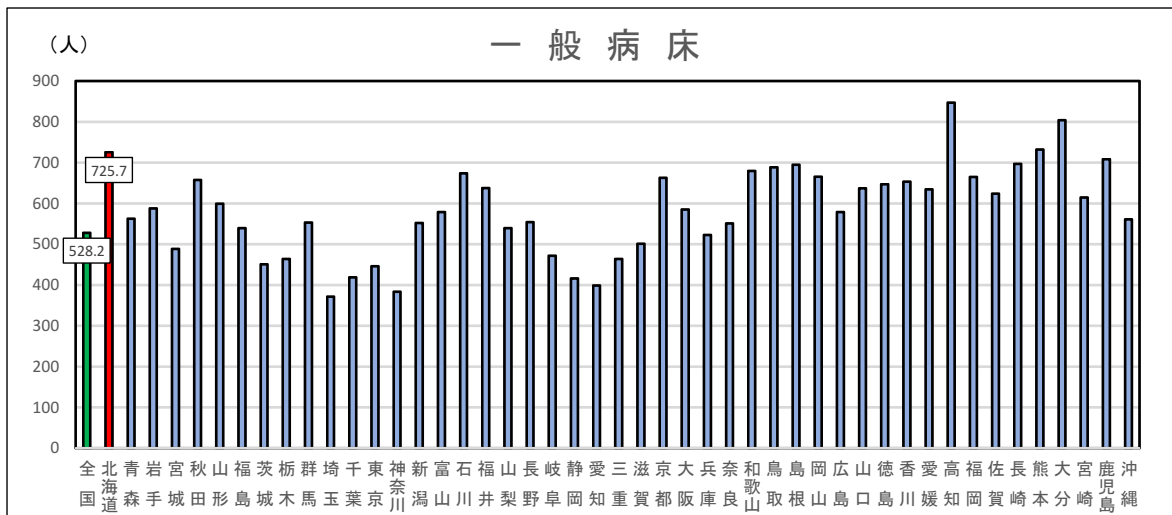
平成28年の「病院報告」(厚生労働省)によると、人口10万対1日平均外来患者数は1,438.3人(全国:1,068.1人)で、このうち、「一般病院」は1,366人(全国:1,023人)、「精神科病院」は71.9人(全国:45.6人)となっており、全国平均値を上回っています。

【人口10万対1日平均外来患者数】



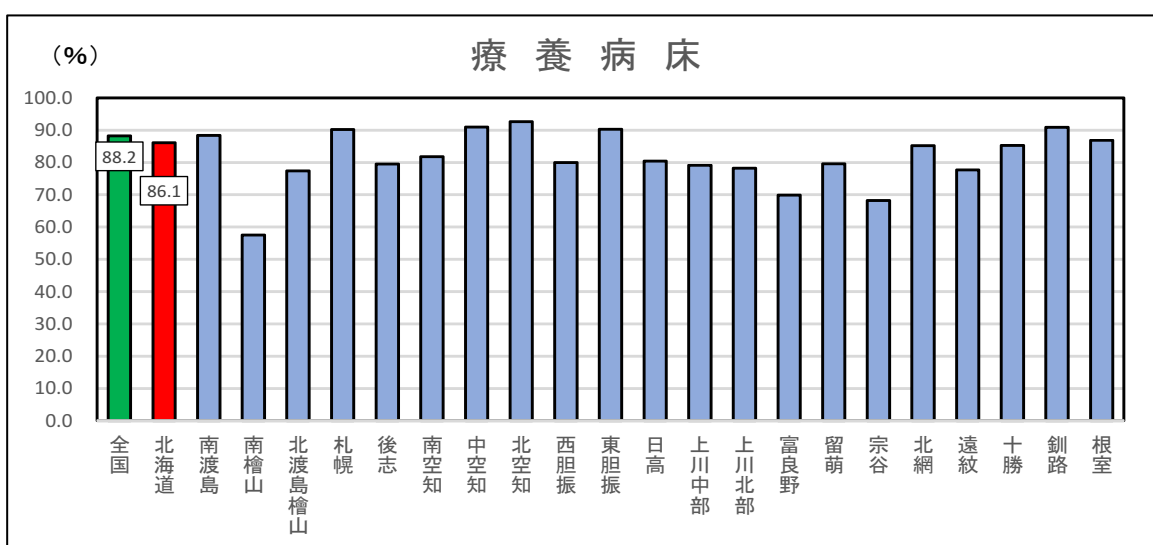
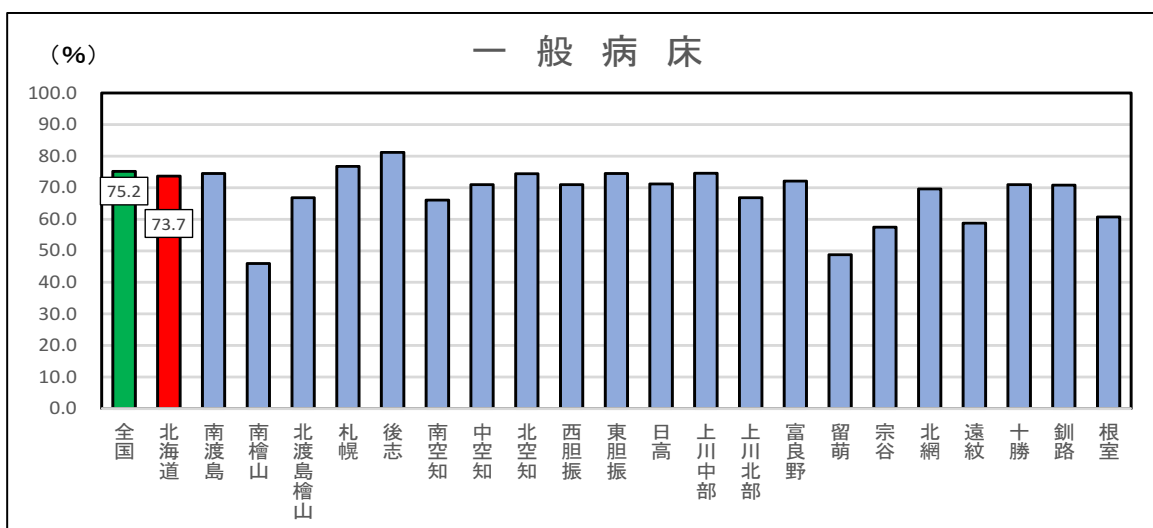
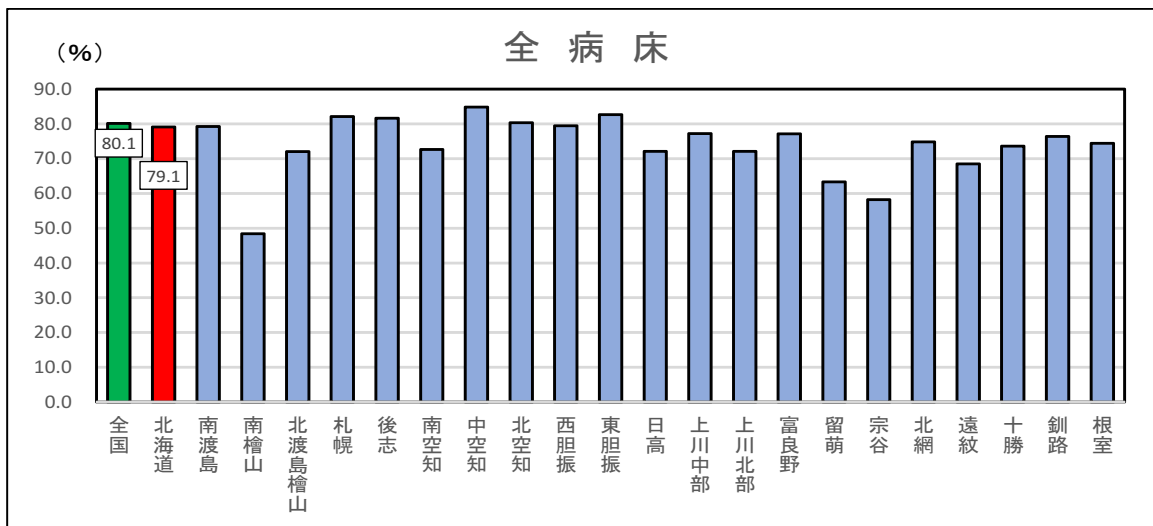
(2) 1日平均在院患者数

平成28年の「病院報告」(厚生労働省)において、人口10万対1日平均在院患者数を病床の種類別に見ると、「一般病床」は725.7人(全国:528.2人)、「療養病床」は359.4人(全国:228.3人)、「精神病床」は326.5人(全国:227.4人)で、全ての病床で全国平均値を上回っています。



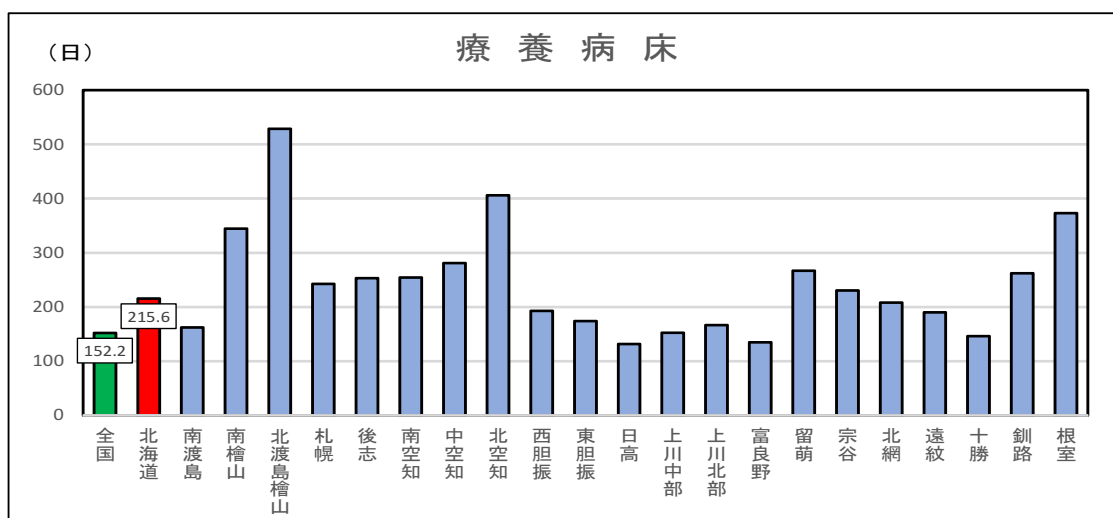
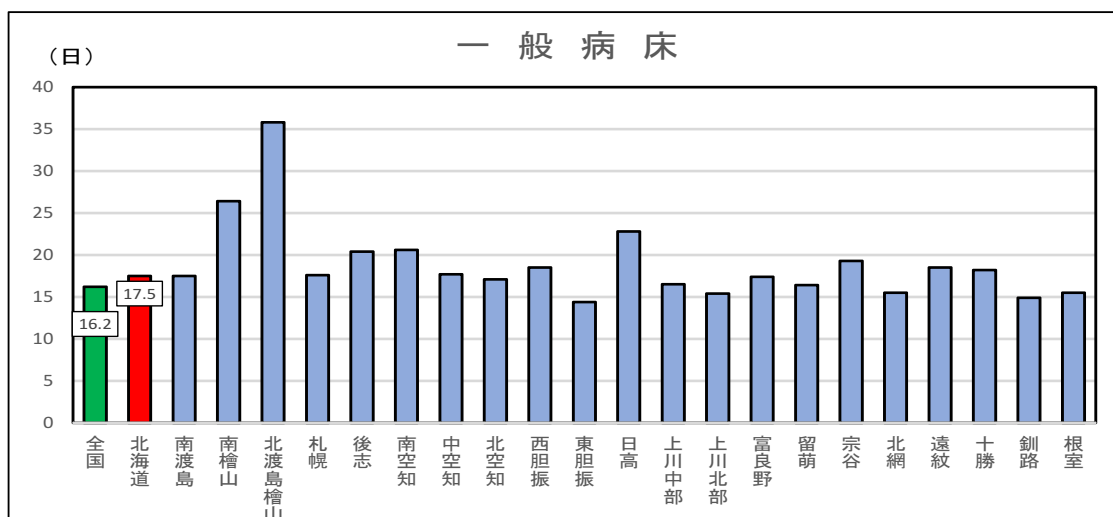
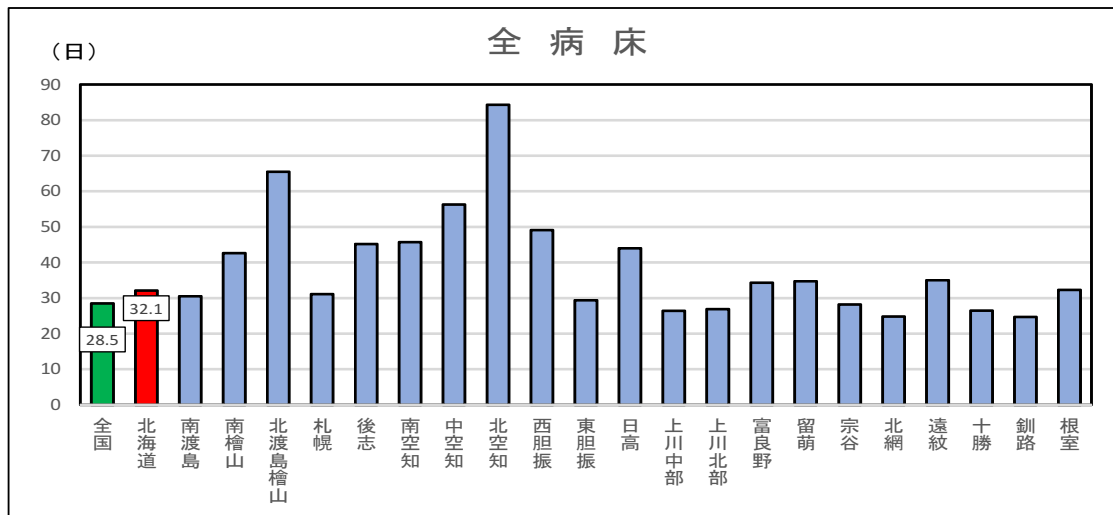
3 病床利用率

平成28年の「病院報告」(厚生労働省)によると、病院の病床利用率は79.1%(全国:80.1%)であり、病床の種類別に見ると、「一般病床」は73.7%(全国:75.2%)、「療養病床」は86.1%(全国:88.2%)となっており、全ての病床で全国平均値を下回っています。



4 病床種類別の平均在院日数

平成28年の「病院報告」(厚生労働省)によると、病院の平均在院日数は32.1日(全国:28.5日)であり、病床の種類別に見ると、「一般病床」は17.5日(全国:16.2日)、「療養病床」は215.6日(全国:152.2日)となっており、全ての病床で全国平均値を上回っています。



第5節 医療提供施設の状況

1 病院

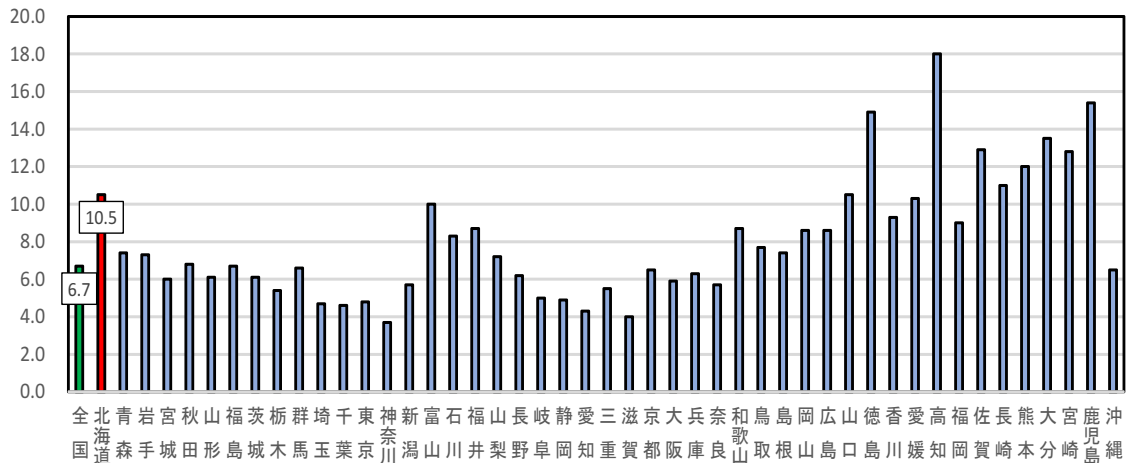
- 病院数は、平成2年の682か所から年々減少しており、平成27年10月1日現在では、566か所となっています。
- 人口10万対病院数では10.5と47都道府県中9番目に多い病院数となっており、全国平均の6.7を上回っています。
- 病床数は年々減少しており、平成27年10月1日現在では、9万5,749床となっています。

【病院数の推移】

区分	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
病院数	682	657	638	620	584	579	574	575	569	566

* 北海道保健統計年報

【都道府県別人口10万対病院数】



* 厚生労働省「医療施設調査」（平成28年）

【病床数の推移】

(単位：床)

区分	総数	精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床
平成2年	111,629	21,938	870	2,091	-	86,730
平成7年	109,793	21,971	656	1,527	-	85,639
平成12年	107,788	22,063	96	1,186	-	84,443
平成17年	104,897	21,526	82	673	28,898	53,718
平成22年	99,162	21,131	90	363	23,888	53,690
平成23年	98,526	20,974	90	359	23,565	53,538
平成24年	97,555	20,722	90	359	23,026	53,358
平成25年	97,341	20,671	90	283	22,830	53,467
平成26年	96,574	20,484	94	243	22,646	53,107
平成27年	95,749	20,263	94	232	22,389	52,771

* 北海道保健統計年報

* 「伝染病床」は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」が施行され「感染症病床」に改められた。

* 一般病床には、旧「その他の病床」（療養型病床群を除く。）を含む。

* 病院の療養病床には、旧療養型病床群を含む。

【開設者別病院数】

平成29年4月1日現在

開設者	国	道	市町村	独立行政法人	公的病院 (自治体病院を除く)	共済組合 及び連合会	公益法人	医療法人
病院数	15	7	83	1	29	2	7	391
開設者	私立学校法人	社会福祉法人	医療生協	会社	その他の法人	個人		合計
病院数	1	12	2	3	2	8		563

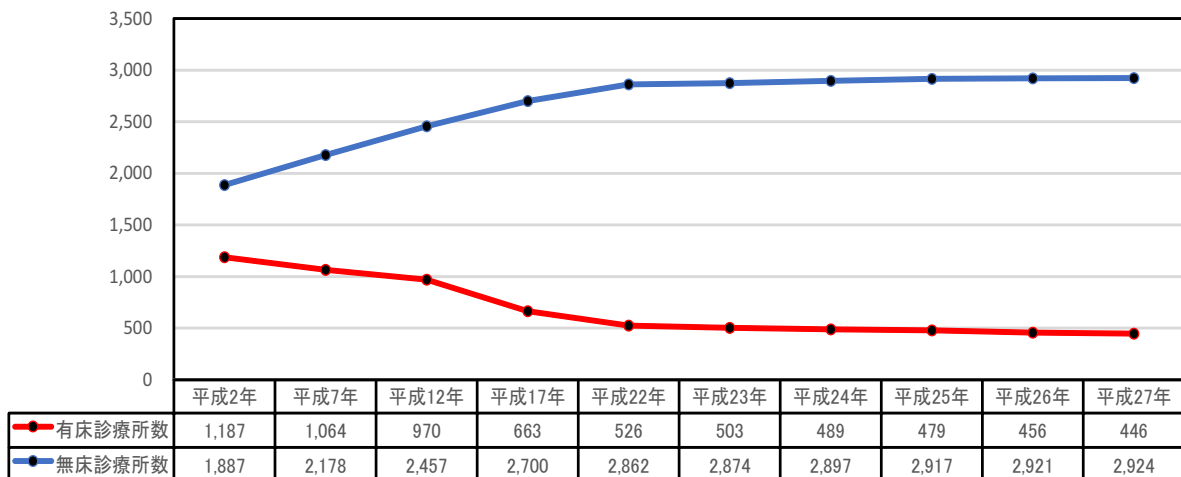
* 北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課調

2 診療所

- 一般診療所数は、平成27年10月1日現在では、有床・無床合わせて3,370か所となっており、傾向としては無床診療所が増加し有床診療所が減少しています。
- 歯科診療所数は、平成27年10月1日現在では、有床・無床合わせて2,983か所となっており、傾向としては横ばいの状況です。

【一般診療所数の推移】

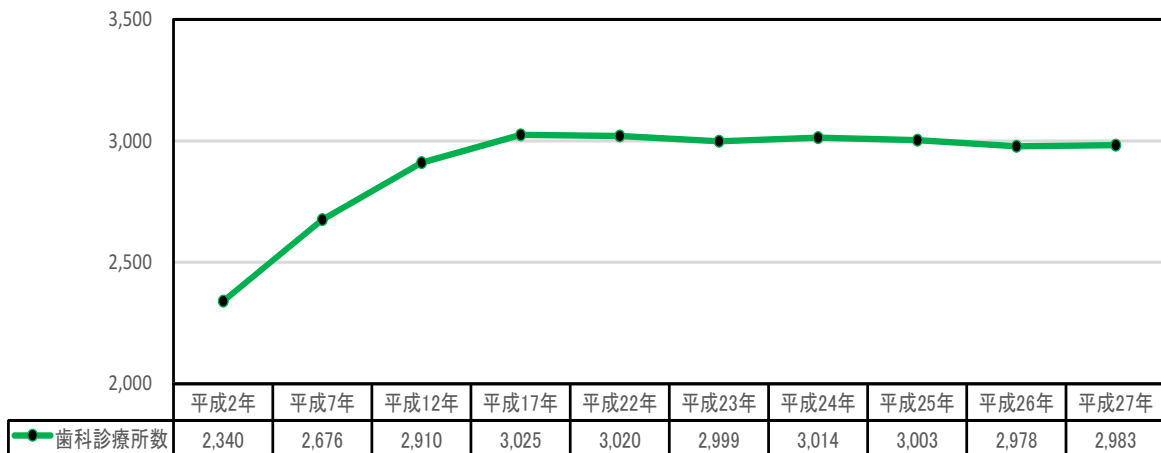
(単位：か所)



* 北海道保健統計年報

【歯科診療所数の推移】

(単位：か所)



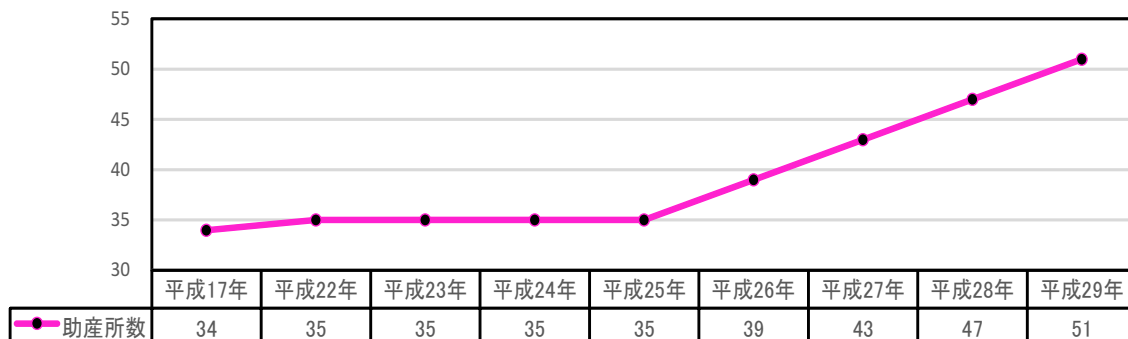
* 北海道保健統計年報

3 助産所

助産所数は、平成29年4月1日現在では、51か所となっており、増加傾向にあります。

【助産所数の推移】

(単位：か所)



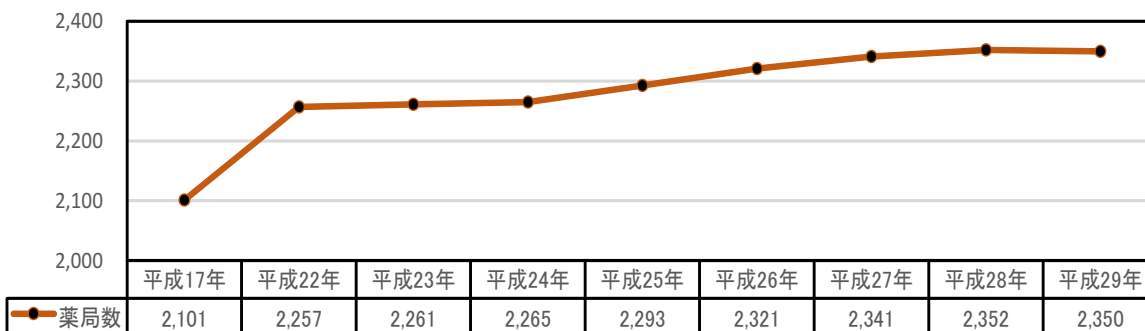
* 北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課調

4 薬局

薬局数は、平成29年3月31日現在では、2,350か所となっており、医薬分業の推進に伴いこれまで増加傾向にありましたが、平成28年度以降、鈍化しています。

【薬局数の推移】

(単位：か所)



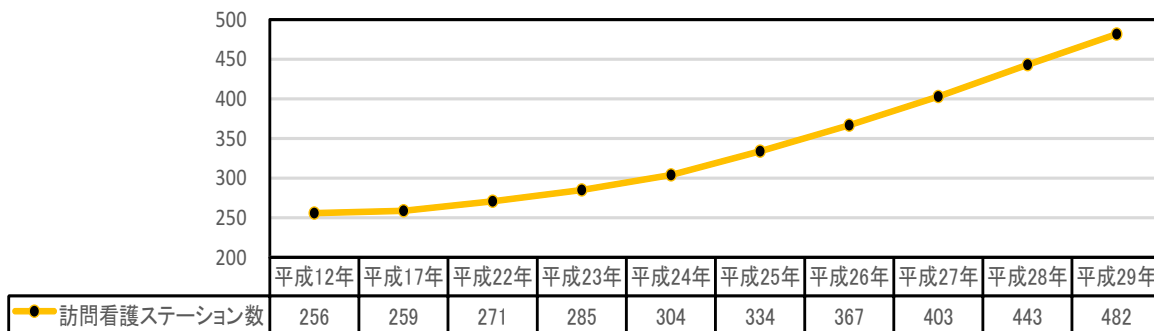
* 北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課調

5 訪問看護ステーション

訪問看護ステーション数は、平成29年4月1日現在では、482か所となっており、増加傾向にあります。

【訪問看護ステーション数の推移】

(単位：か所)



* 北海道保健福祉部福祉局施設運営指導課調

* 指定居宅サービス事業所（訪問看護） ※保険医療機関の「みなし指定事業所」を除く。

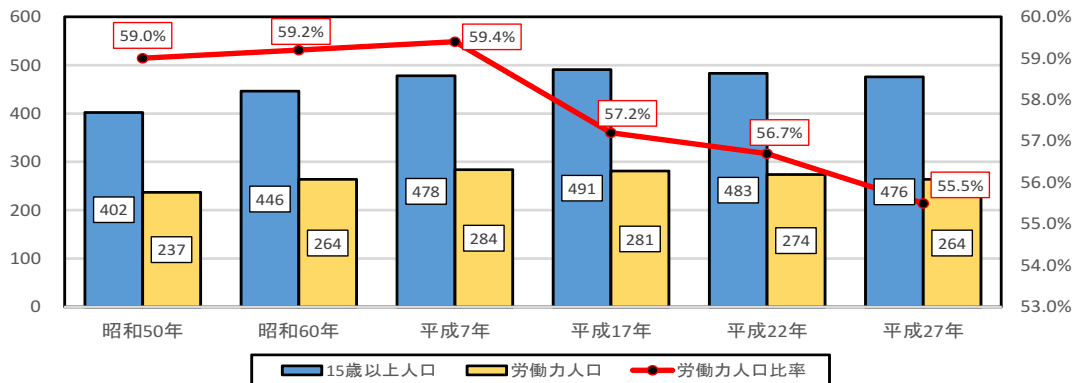
第6節 医療従事者の年次推移

1 趣 旨

- 道内全体の労働力については、平成27年の15歳以上人口は約476万人、労働力人口は約264万人であり、労働力人口比率は55.5%と、いずれも減少傾向にあります。
- 病院全体の従事者数については、平成28年では、118,658.1人（常勤換算後）であり、増加傾向にあります。
- 医師、歯科医師、薬剤師、看護職員及び歯科衛生士の入学定員に対する入学者数（充足率）は、全体では平成24年度をピークに減少傾向にあります。

【労働力人口等の状況】

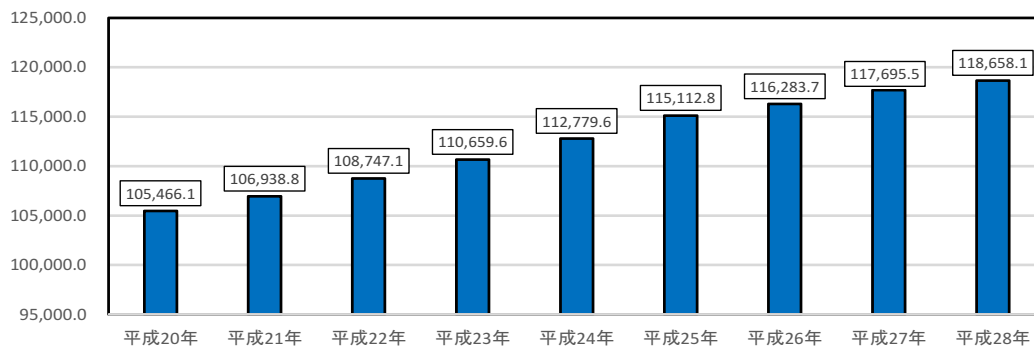
（単位：万人）



* 総務省「労働力調査」

【病院従事者の状況】

（単位：人）



* 厚生労働省「病院報告」

【入学定員、入学者の状況】

（単位：人）

種 別	区 分	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
医 師	定 員 数	305	327	344	344	344	344	344	344	344
	入 学 者 数	305	327	344	344	344	344	344	344	344
歯 科 医 師	定 員 数	160	160	160	153	133	133	133	133	133
	入 学 者 数	157	126	108	84	97	96	114	123	123
薬 剤 師	定 員 数	390	390	390	390	400	400	400	400	400
	入 学 者 数	422	442	439	440	438	445	438	431	409
看 護 職 員	定 員 数	3,996	4,333	3,878	3,630	3,582	3,678	3,694	3,674	3,700
	入 学 者 数	3,802	3,822	3,777	3,569	3,530	3,596	3,579	3,611	3,555
歯 科 衛 生 士	定 員 数	578	558	544	544	544	544	544	544	544
	入 学 者 数	385	398	444	479	470	450	422	420	345
合 計	定 員 数	5,429	5,768	5,316	5,061	5,003	5,099	5,115	5,095	5,121
	入 学 者 数	5,071	5,115	5,112	4,916	4,879	4,931	4,897	4,929	4,776
	充 足 率	93.4%	88.7%	96.2%	97.1%	97.5%	96.7%	95.7%	96.7%	93.3%

* 北海道保健福祉部調

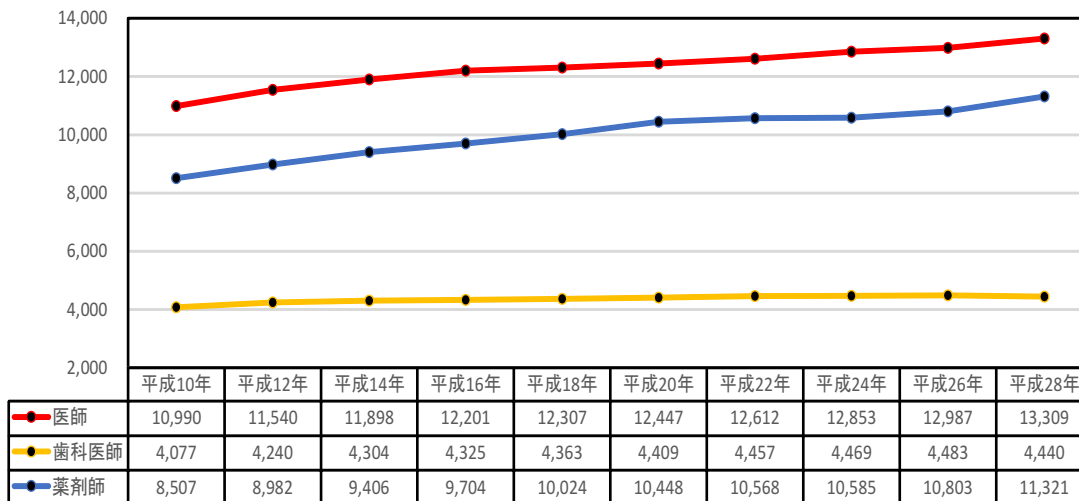
2 医師・歯科医師・薬剤師の状況

医師と薬剤師は増加傾向にあります。歯科医師は前回調査と比較して減少しています。

なお、平成28年と、10年前の平成18年とを比較すると、医師1,002人（8.1%）、歯科医師77人（1.8%）、薬剤師1,297人（12.9%）の増加となっています。

【医師・歯科医師・薬剤師の状況】

（単位：人）



* 厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

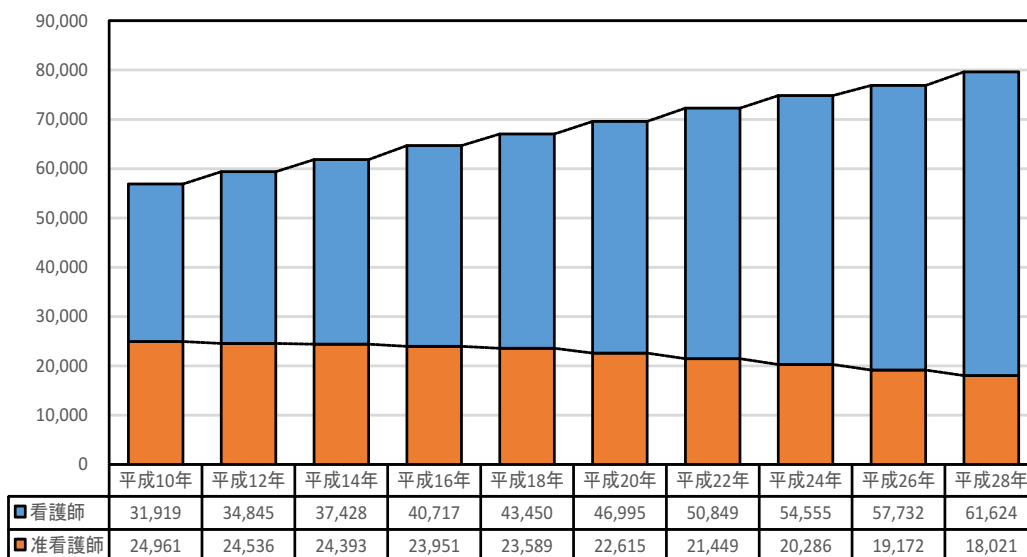
* 第二次医療圏別については、第9章資料編参照

3 看護師・准看護師の状況

看護師は増加傾向にあり、平成28年では、10年前の平成18年と比較して、1万8,174人（41.8%）の増加となっています。准看護師は5,568人（23.6%）の減少となっています。

【看護師・准看護師の状況】

（単位：人）



* 北海道保健福祉部「看護師等業務従事者届」

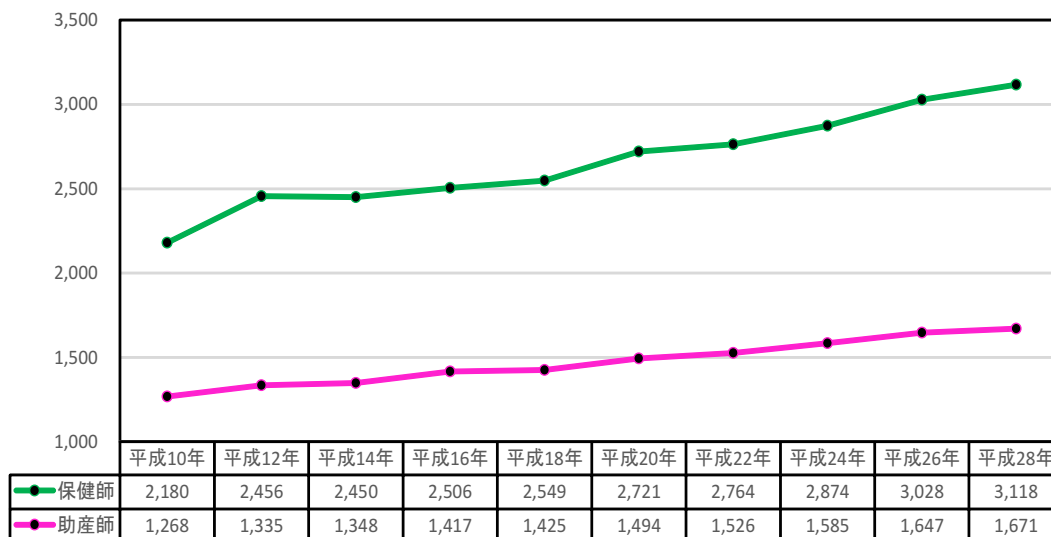
* 第二次医療圏別については、第9章資料編参照

4 保健師・助産師の状況

保健師、助産師ともに増加傾向にあり、平成28年では、10年前の平成18年と比較して、保健師569人（22.3%）、助産師246人（17.3%）の増加となっています。

【保健師・助産師の状況】

（単位：人）



* 北海道保健福祉部「看護師等業務従事者届」

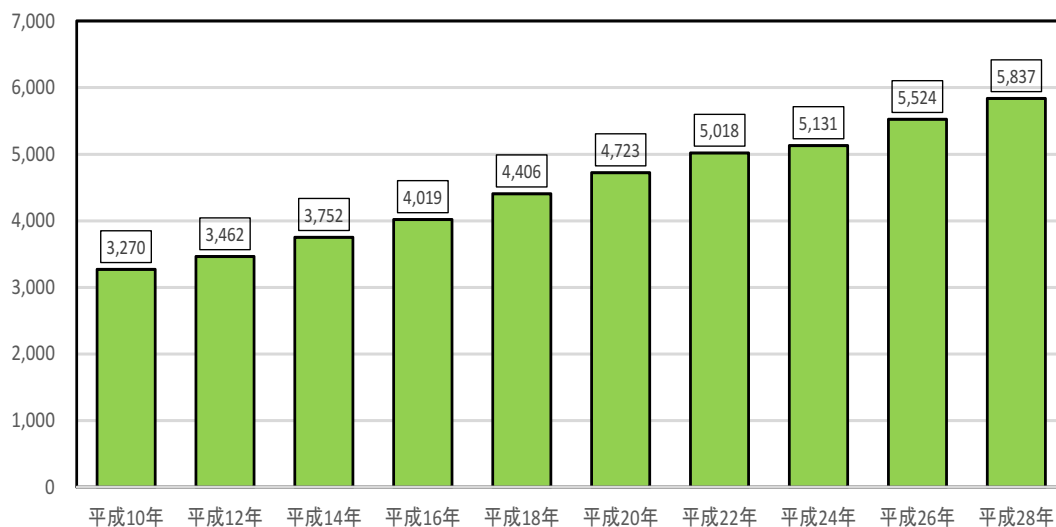
* 第二次医療圏別については、第9章資料編参照

5 歯科衛生士の状況

歯科衛生士は増加傾向にあり、平成28年では、10年前の平成18年と比較して、1,431人（32.5%）の増加となっています。

【歯科衛生士の状況】

（単位：人）



* 厚生労働省「歯科衛生士従事者届」

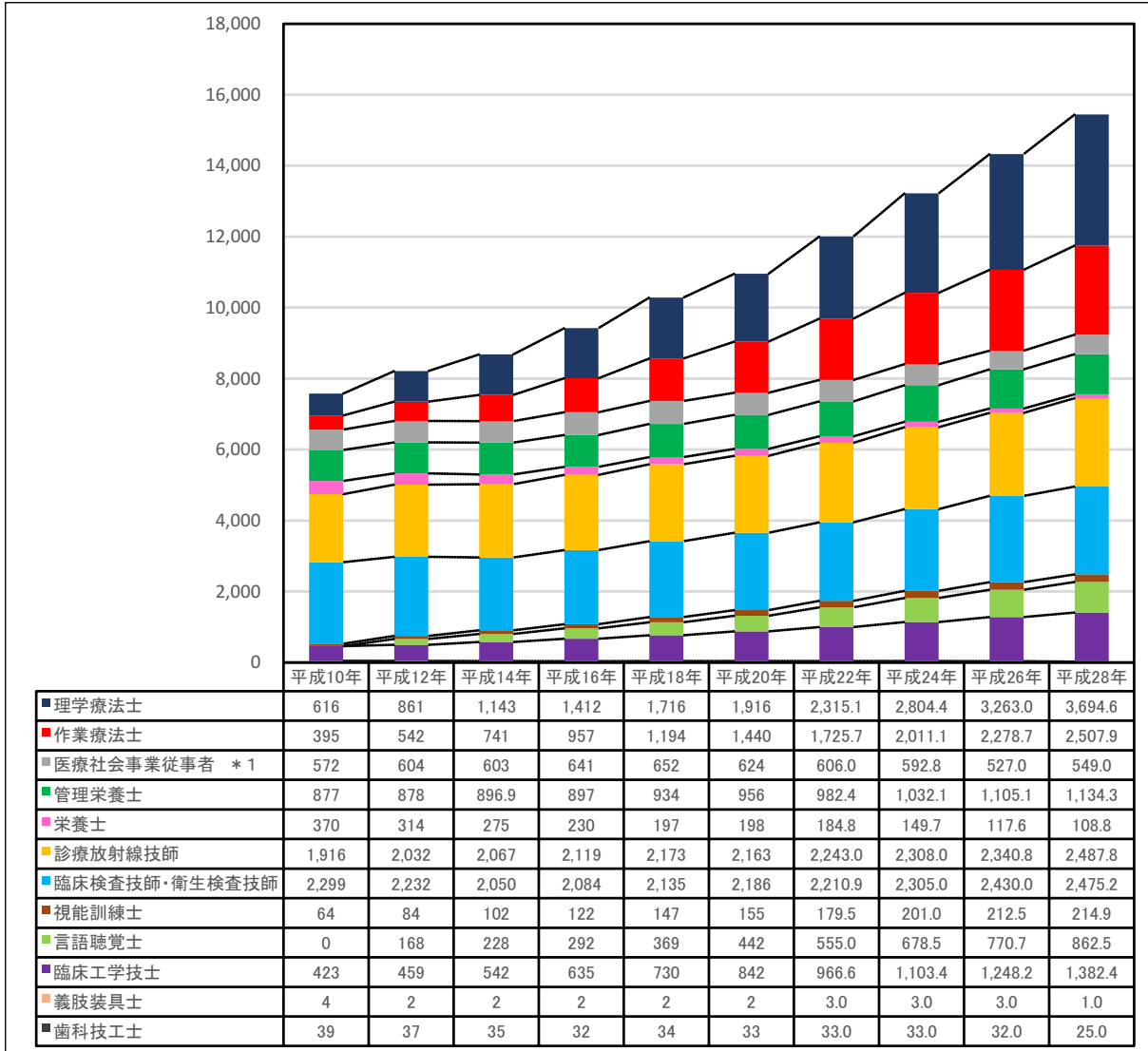
* 第二次医療圏別については、第9章資料編参照

6 主な病院従事者の状況

主に理学療法士、作業療法士、管理栄養士及び言語聴覚士が増加傾向にあり、平成28年では、10年前の平成18年と比較して、理学療法士1,978.6人（115.3%）、作業療法士1,313.9人（110.0%）、管理栄養士200.3人（21.4%）、言語聴覚士493.5人（133.7%）の増加となっていますが、栄養士にあつては88.2人（55.1%）の減少となっています。その他の医療従事者については、下表のとおりになっています。

【主な病院従事者の状況】

（単位：人）



* 厚生労働省「病院報告」によるものであり、平成14年以降は常勤換算後の人員

* 第二次医療圏別については、第9章資料編参照

* 1 医療社会事業従事者：患者やその家族に対し疾病の治療等の妨げとなる経済的、精神的な諸問題等について相談、指導を担当する者（例えば、生活相談員、保護相談員、ケースワーカー、セラピスト、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー等）